

# 下関市夜間景観形成基本方針

下関市  
平成18年4月

## 目次

1 . 夜間景観形成基本方針 . . . . .	3
1 - 1 . 夜間景観形成基本方針について	
1 - 2 . 夜間景観形成基本方針（全体コンセプト）	
1 - 3 . エリア別基本方針（個別コンセプト）	
2 . 夜間景観整備対象 . . . . .	4 0
2 - 1 . 整備対象	
2 - 2 . 整備対象の選定	
2 - 3 . 整備イメージ	
2 - 4 . イメージパース	
3 . 夜間景観整備計画 . . . . .	4 7

## **1 . 夜間景觀形成基本方針**

## 1-1. 夜間景観形成基本方針

近年、都市化に伴う夜間の生活時間の増大といったライフスタイルの変化により、景観形成を考える上で、夜間景観形成の重要度は高まっている。景観照明などの光の演出は、地域の個性やにぎわいを生み出すことにつながってだけでなく、優れた夜間景観は、市民が快適に生活するための都市環境上の重要な要素の一つであり、市民がまちに愛着を持ち、来街者が再び訪れたいと思う契機ともなっている。

本指針は、本市における景観形成推進の基本となる都市景観形成基本計画、関門景観基本構想及び関門景観形成指針等を踏まえ、昼間の景観だけでは気づけなかったまちの魅力を再発見し、又、新たな魅力を創出させ、下関らしい夜間景観を形成するために、昨年度行った夜間景観に関する調査に基づきまとめたものである。

### (1) 夜間景観における美しさ・魅力について

地球上には、たくさんの都市があり、日が暮れるとそこには様々な夜景が展開し、どの都市も各々特徴のある美しい夜景がある。

宇宙からの眺めは無理としても、私たちは飛行機の中から世界の都市の夜景を見ることができると。都市景観照明という概念が日本で生まれ、試行錯誤が始まったのは、1970年代からであり、日本における景観照明の歴史は20年余しか経っていない。

日本は、古来より光に対しては独特の文化をはぐくんできた。ねぶた祭りや、大文字送り火などに見られる壮大な光による演出、障子越しの光や行灯の光など、薄明りの光という光文化は他にない優れたものと言えよう。その文化をもう一度見直して、近代都市の夜間景観の創造に生かす工夫は、これからの日本の都市の夜間景観の質を高め、他にない美しさを生み出す一つの鍵とも言える。

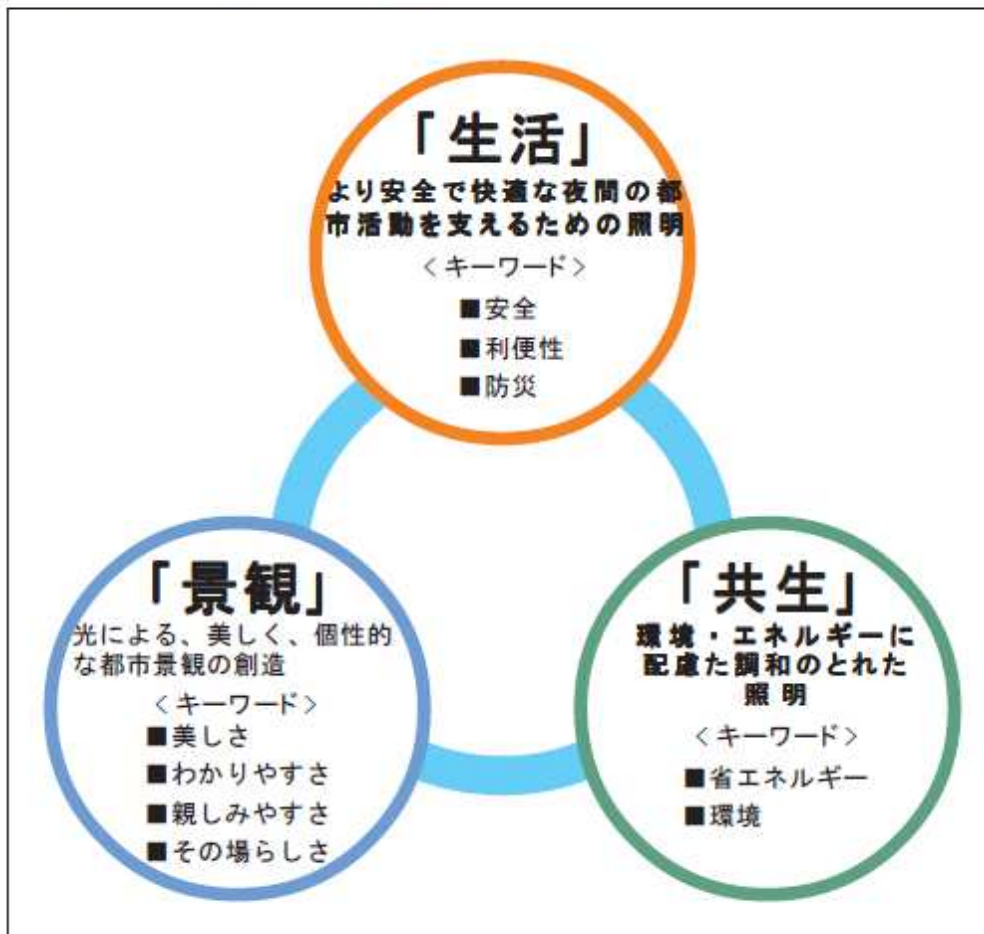
「光」というフィルターを通して都市全体を見直すことにより、昼間の景観だけでは気づけなかった都市の魅力を再発見すると共に、快適で安全な、そして21世紀のライトスケープの基本理念である「美しさ・わかりやすさ・親しみやすさ・その場らしさ」を実現し、夜間景観が街の魅力を創出するような光環境づくりへの取り組みが望まれている。

## (2) 都市照明の基本的な考え方

1995 年秋、初めての世界夜景会議が大阪で開催された。国際化に伴い、都市が 24 時間活動の場となっていく今日、都市の夜景をどう位置づけて行くかを、行政、専門分野、市民の幅広い層が参加して討議する場となった。又、世界各地からの参加者から各都市の夜間景観が報告され、その取り組みの違いが、クローズアップされた。

そして、都市の夜間景観の基本テーマとして「景観」「生活」「共生」の三つが提言され確認された。即ち、その都市ならではの個性を引き出す美しい夜間照明である事、市民の安全な生活の空間と時間を確保する事、最新技術を活用して、エネルギー問題と環境問題に積極的に対応する事、の三点が、最も基本的な姿勢であるとの共通理解が確認された。

### ◇都市照明の基本的な考え方



夜間景観照明を考える場合、下記に示す「生活」「景観」「共生」の3つの視点が基本的な考え方の柱となる。

#### ◇3つの視点の基本的な考え方

「生活」… 人々の日常の生活を支える照明であることを基本とし、特に犯罪や事故に対する安全確保は重要で、また人と街に活気をもたらす効果についても考慮する。

「景観」… 建物や橋など対象物を、昼間の景観では気づかなかった魅力を光によって引き出すだけでなく、その街らしさや歴史を表現し個性ある景観をつくりだす。

「共生」… 美しい景観をつくる上でも無駄と思われる光は減らし、必要と思われる光もそのデザインや配光、効率に配慮し、できるだけ上空への飛散を抑え環境への配慮と省エネルギーを実現する。

## 1-2. 夜間景観形成基本方針（全体コンセプト）

### （1）下関市における夜間景観形成について

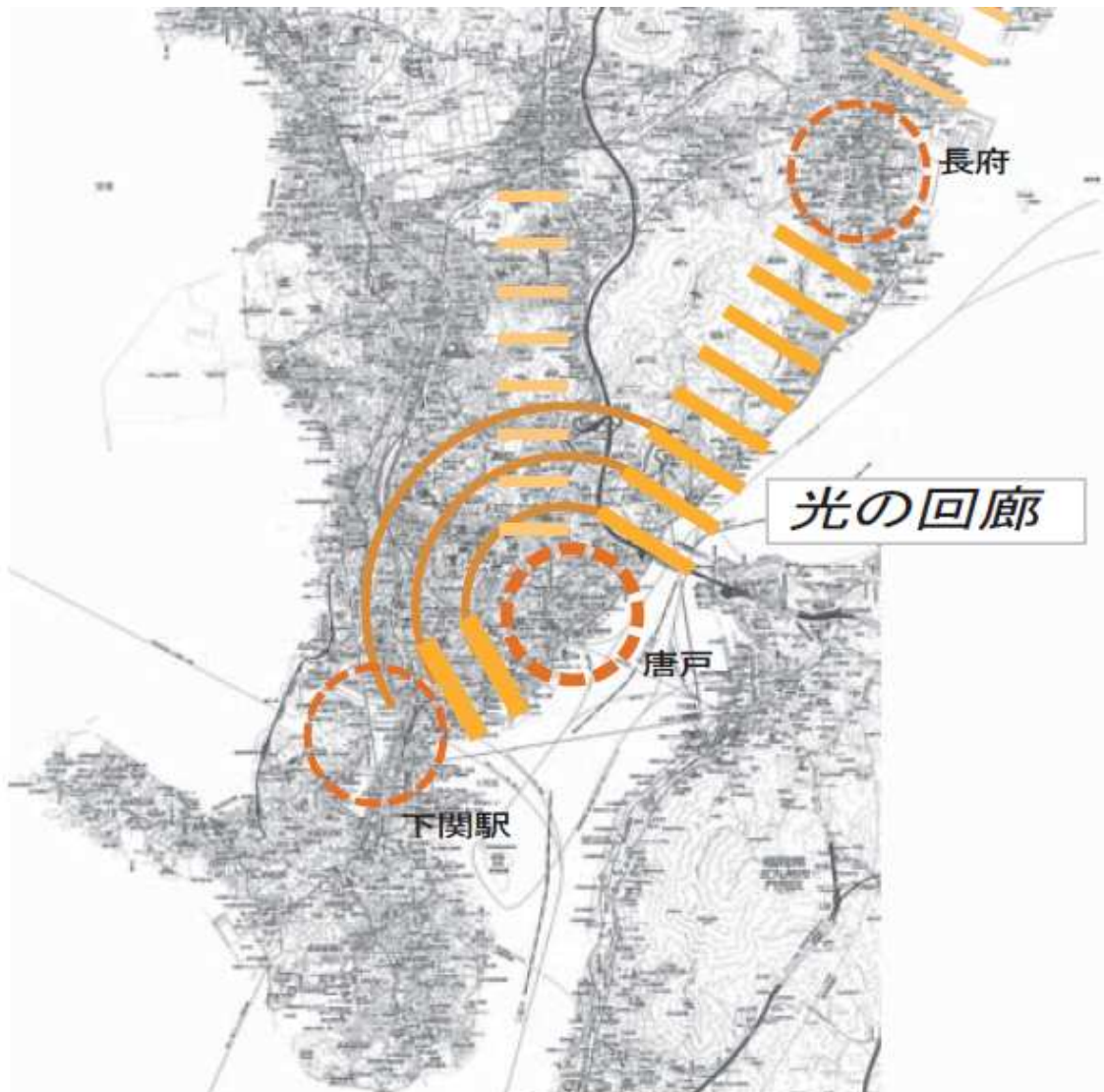
海峡に沿ってつながるエリアには、歴史的にも建築学的にも重要な、建造物や遺構などが多く集まっている。

そこで、このエリアを夜間景観形成上においても重要な軸であると考え、下関駅～唐戸～長府へと連なるルートを

### 『光の回廊』

として設定した。

特に、下関駅～唐戸に至るルートの重要度は大きく、唐戸を中心としたエリアから周辺部へと光のエリアを広げていくことで、波及効果の高い「夜間景観形成」=光のまちづくり ができるものと考えられる。



## (2) デザインコンセプト

デザイン作成の考え方として、以下の5つのコンセプトを策定した。

**歴史**： 下関の多彩な歴史を大切にする。

**文化**： 歴史が育んだ文化を強調する。

**景観**： 海と山に近い、豊かな自然を際立たせる。

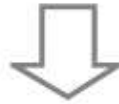
**生活**： 人々の暮らしが向上する照明とする。

**普遍**： 省エネルギーをふまえ、維持管理のし易い計画とする。



### (3) テーマ

- I 豊かな歴史性、文化性をふまえ、下関市の魅力を発信できるものとする。
- II 門司地区との海峡連携という新しい交流の試みを増幅させ、より多くの集客を図る。
- III 市の目標とする都市像である「自然と歴史と人が織りなす交流都市 ~自然と人、人と人、ふれあいで輝く共創のまちづくりを目指して~」と「歴史の 1000 年舞台・下関」を基調とした夜間景観を創る。



下関夜景創造 - 千年・明り物語

### 1-3. エリア別基本方針（個別コンセプト）

#### （1）エリア別基本方針（個別コンセプト）について

6 エリアにおいて行った調査より、夜間景観上の重要度の高い施設を有する割合の多いエリアを、今後の夜間景観照明整備に有効なエリアとして3 エリア選定した。全体コンセプトを実現するにあたり、選定したエリアそれぞれについて、どのような方向性と光のイメージを基に整備計画を策定すべきかをエリア別基本方針（個別コンセプト）として策定する。

- ◎ 基本方針策定にあたっては、まず3エリアについて改めて景観上の現状調査を行い、それぞれの景観特性や問題点を明らかにする。
- ◎ エリア別基本方針は、そうした分析を基に各エリアについてのコンセプト適応イメージと光のイメージ及び、エリア内の景観を構成する施設毎の整備の方向性によって表す。



(2) エリア別基本方針（個別コンセプト）

a. 下関市街・唐戸エリア

調査場所



i. 景観の現状

① 下関駅前周辺

下関駅東口周辺



昼間



夜間

下関駅西口周辺



昼間



夜間

ペディストリアンデッキ上部歩道



昼間



夜間

ペディストリアンデッキ下部歩道



昼間



夜間

下関駅東口



昼間



夜間

山陽本線高架下



昼間



夜間

## 昼 景

- ◎ 西口と東口の景観が大きく異なっている。下関商港に向けた東口は、バスターミナルを備え商業施設が多く、人々も多く往来している。特徴的な歩行者専用デッキは、市民に活用され機能しているが、陸路の玄関口としての駅前の景観を雑然とした落ち着きのない空間とし、またデッキ下を暗がりと圧迫感のある歩道にしている。
- ◎ 西口は、タクシー乗り場以外何も無い簡素な空間となっており、鉄道路を挟んで東西に街が分かれていることの象徴となっていると思われる。
- ◎ 国道を通過する鉄道の高架下も、薄暗く安全とはいえない空間となっており、自転車以外利用者は少ない。

## 夜 景

- ◎ 東口は、全体に暗い上に商業施設のサイン照明が目立ち、雑然さが強調されている。特にデッキ下の照明は、照明効率が悪い反射光によるため、天井ばかり明るく路面には光が届いていない。デッキ上は暖かい光色のナトリウムランプを用いた小型の足元灯を配置し景観に配慮しているが、路面全体や歩行者同士を見分ける明るさが不足しており、安全性と機能性に問題がある。
- ◎ 西口は昼間の景観以上に簡素で暗い空間となっており、駅であることも見落としそうな照明となっている。

②海峡メッセ周辺

ゆめタワー



昼間



夜間

海峡ゆめ広場



昼間



夜間

下関国際ターミナル



昼間



夜間

下関国際ターミナル前歩道橋



昼間



夜間

海峡メッセ前街路



昼間

海峡メッセ周辺街路



昼間



夜間



夜間

## 昼 景

- ◎ 153mの高さの海峡ゆめタワーは、比較的高層建築の少ない下関市にあって有効なランドマークとなっている。また、広場や街路も整備されており市民や観光客に多く利用されている。
- ◎ 中国、韓国とを結ぶ国際航路の拠点である下関港国際ターミナルは、下関駅とも隣接し中心地にも近く利便性の高い港である。

## 夜 景

- ◎ ライトアップされた海峡ゆめタワーは、下関市における夜間景観の中心となっている。
- ◎ 整備された広場は、照明設備はなされているが点灯していなかった。
- ◎ 下関港国際ターミナルは、夜間の利用者が少ないせいか夜間は全体に暗く国際港という雰囲気は感じられない。また、下関駅と結ぶデッキは駅前の照明と異なり下方向配光のポール灯で照明を行っており路面を十分に明るくしている。
- ◎ 近年整備された海峡メッセ周辺は、街路灯も新しく配光も下方向を主体としグレア等景観にも配慮しているが、形状には関連性がない。

## 唐戸棧橋周辺海岸沿い

唐戸交差点



昼間



夜間

## 唐戸棧橋及びカモンワーク



昼間



夜間



山口銀行旧本店



昼間

亀山八幡宮



昼間



夜間

(ライトアップ既施工)



夜間

## 昼 景

- ◎ 海路の拠点となる下関商港は、近年の棧橋周りの整備や海響館、唐戸市場等の建設によりこの一帯が下関市の中心となっている。今後も海響館の南側に再開発(あるかぼ一と)を予定している。

新整備施設以外にも商港周辺は山口銀行旧本店や日清講和記念館、神社等の歴史文化施設が多く集まっている地区である。

## 夜 景

- ◎ 下関商港は新しい建物や棧橋に照明を配置し、夜間も観光客が利用できるよう配慮している。
- ◎ 港前の交差点から見える複数の歴史的建造物はそれぞれライトアップされているが、歩道橋やその他の施設で見えにくくなっている上に、明るさを含めて照明手法が不十分のため建物の特徴が活かされていない。
- ◎ 港前にある歴史的建造物以外はせっかくの歴史文化的な財産も照明されておらず闇に埋もれている。

④街路全般

国道9号線



昼間



夜間

県道 南風泊線



昼間



夜間

県道57線



昼間



夜間

県道57線



昼間



夜間

## 昼 景

### 国道9号・191号線

- ◎ 駅両線とも中心的な街路で、特に中心部に位置する9号線は幅員も大きく車輛通行量はかなり多い。  
街路灯は両線ともデザイン的にシンプルな形状で統一されている

### 県道57号線

- ◎ 国道と同等に中心的な街路で、車輛通行量はかなり多い。街路灯は、国道と同様デザイン的にシンプルな形状で、歩道用の灯具も共架されている。

## 夜 景

### 国道9号・191号線

- ◎ 灯部は上空に光漏れの無い下方向配光タイプを使用しており景観に配慮している。光源は高圧ナトリウムランプで統一を図っているが、歩道用の灯部は演色性に配慮して白色のメタルハライドランプを使用していると思われる。

### 県道57号線

- ◎ 灯部は国道と同様下方向配光タイプを使用し景観に配慮している。光源は高圧ナトリウムランプを使用しているが、一部メタルハライドランプが混じっており統一が望まれる。歩道用はメタルハライドランプを使用している。

市道 丸山線



昼間



夜間

市道 市役所周辺



昼間



夜間

市道 東駅高尾線



昼間



夜間

街路



昼間



夜間

## 昼 景

### 市道

- ◎ 周囲の機能的な街路照明の中にあつて、市役所前はガス灯を配置し歴史的建造物のある景観としての魅力を高めている。
- ◎ 県道57号線と平行する市道は、地区によって商店街、住宅街、運動公園となつており景観も変化している。特に運動公園沿いは樹形の美しい高木(メタセコイヤ)の並ぶ美しい街路となつている。県道程の幅員もなく、交差点以外街路灯は設置されていない。

## 夜 景

### 市道

- ◎ 市役所前のガス灯は、柔らかく暖かい光を放ち空間の雰囲気を高めているが路面の明るさにはあまり機能しておらず全体に薄暗い街路となつている。
- ◎ 街路には電柱に共架した防犯用の蛍光灯程度しか設置しておらず、とても暗い街路となつている。沿道には住宅もあり、住民の保安上問題があると思われる。運動公園沿いの美しい並木も夜間は上空で道を覆い街路の暗さを強調している。

### 住宅道

- ◎ 電柱に共架した防犯用の蛍光灯で照明をしているが、暗くさみしい街路となつている。

## ii 景観特性及び問題点

### 景観特性

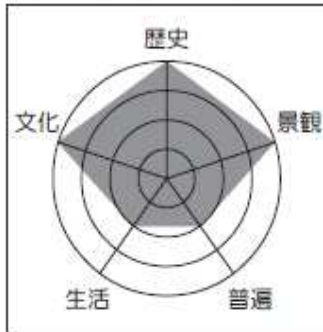
- ◎ 旧下関英国領事館を初めとする多くの歴史的建造物と、夢タワーや海警館などの新しい文化施設が海岸沿いに集中する観光的なポテンシャルの高いエリア。
- ◎ 夜景にも力を入れており、新しい施設はもとより旧秋田商会ビルなどの歴史的建造物も一部照明されている。
- ◎ 交通の拠点となる施設も多く、下関駅、下関商港、下関国際ターミナルがそれぞれ起点となっている。
- ◎ 幹線道路も整備されており、特に国道9号線や県道57号線は都市軸として機能している。街路灯も同等形状で統一し、配光も下方向とし景観に配慮している。市役所前にはガス灯を設け、独自性を出している。

### 問題点

- ◎ 多くの歴史的建造物もそのほとんどは照明されておらず、活かされていない。
- ◎ 交通拠点は多いが、近年整備された下関商港周辺以外は景観上問題が多く、特に下関駅は高架のデッキに配置されている照明についてはその効果や明るさについて改善の必要があると思われる。
- ◎ 照明における主要幹線道路の整備の充実さに較べて、その他の街路については交差点以外あまり設置されていない。

### iii 基本方針

#### コンセプト適応イメージ



#### 光のイメージ

- ◎ 下関市の中心エリア。
- ◎ 多くの歴史的建造物と新しい整備施設を共存させる、美しく斬新な照明を行い、それらを巡ることのできる夜間のルートをつくる。
- ◎ 訪れる人々に歴史と文化の深さを伝えられるような品格と情緒ある光環境を創造する。

#### 整備の方向性

## 建造物

#### 歴史的建造物

- ・ 下関の歴史を表す建造物は、街の個性を引き立て街路における景観上の拠点となるため積極的に照明を行うことが望ましい。
- ・ 視点場からの見え方を検討し、建物全体ではなく特徴的な意匠部分を強調するような照明手法で実施する。

#### 新整備施設

- ・ 「あるかぼーと」などの新しい施設は、夢タワーや海響館などの既存の施設の景観と調和した照明を行う。
- ・ 建物だけでなく植栽など外構についても適宜照明を行う。

## 街路

#### 幹線道(国道、県道)

- ・ 道路照明として安全で快適な明るさを確保できるような照明を行う。
- ・ できるだけ器具形状や光源(光色)は統一し、周囲に対する配慮として光漏れのしないような灯具が望ましい。

#### 市道

- ・ 交差点以外にも道路照明として安全で快適な明るさを確保できるような照明を行う。
- ・ できるだけ光源(光色)は統一し、光漏れのしないような灯具が望ましい。
- ・ 街路樹などが整備された美しい景観の街路については、それらを活かす照明を検討する。

#### 住宅路

- ・ 保安上、防犯上必要と思われる箇所に十分な明るさを確保できるような照明を行う。
- ・ 周囲に対する配慮として光漏れのしないような灯具が望ましい。

## 交通拠点

### 下関商港

- ・交通の拠点としてふさわしい、快適で安全な光環境とする。
- ・観光上の拠点でもあり、機能だけでなく楽しさや美しさを含んだ照明を行う。

### 下関駅及び下関港国際ターミナル

- ・交通の拠点としてふさわしい、快適で安全な光環境とする。
- ・デッキ上下の歩道面の明るさについて検討し、安全性に配慮した照明を行う。

## 公園/広場

### 公園、広場

- ・海岸沿いの公園は視点場としても有効なため、人々が訪れやすくなるよう快適な照明の設置が望ましい。
- ・植栽や樹木のある公園は、特に花木についてその美しさを強調するような照明を行う。





i . 景観の現状

①城下町地区

壇貝側沿い街路



昼間



夜間

古江小路



夜間

忌宮神社



昼間



夜間

長府毛利邸



昼間



夜間

功山寺 仏殿（国宝）



昼間



夜間

下関市立美術館



昼間



夜間

## 昼 景

- ◎ 歴史的な寺社等の建物と練堀が連続する街並は、城下町としての風情を色濃く残す美しい景観として観光客を集めている。ホテルの名所である檀具川沿いもよく整備され、良い散策路となっている。
- ◎ 城下町地区は一般の住宅地でもあるが、景観上違和感無く融合している。

## 夜 景

- ◎ 美しい建物も夜間は全く見えず、功山寺は一部投光されているが明るさ手法とも十分とはうえない。街路照明も少なく夜間散策ができるような明るさではない。
- ◎ 住宅地内には防犯灯程度が設置されている。

②街路その他

長府駅前



昼間



夜間

国道9号線



昼間



夜間

商店街市道



昼間



夜間

金屋町市道



昼間



夜間

侍町市道



昼間



夜間

新設飲食店



昼間



夜間

## 昼 景

- ◎ 城下町らしい街並とは別に、国道と平行する主要街路沿いには、モダンな店やアーケードのある商店街が点在している。
- ◎ 幹線道である国道9号線及び2号線が長府エリアへの主動線となっている。
- ◎ 交通の要所となるべき長府駅は長府エリアから2km以上離れており、バス等により乗り継ぐことが条件となるため利用者は少ない。

## 夜 景

- ◎ 主要街路沿いは街路灯が配置され、商店街もアーケードに照明が共架され路面を明るくしている。しかし光源はそれぞれ高圧ナトリウムランプと水銀ランプを光源としており全体に統一がとれていない。最近立てられた飲食店は暖かい色の間接光を用いた照明がされているが、明るさを含めて周囲の景観と調和していない。
- ◎ 国道9号線及び2号線とも幹線道として道路照明が配置されているが、長府らしさを感じさせる照明は特にない。
- ◎ 夜間の長府駅は待合室から漏れる光だけのさびしい駅舎となっている。

## ii 景観特性及び問題点

### 景観特性

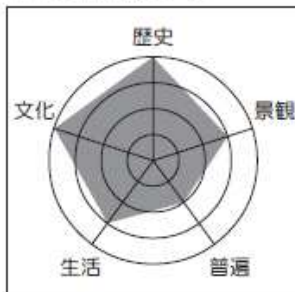
- ◎ 城下町地区は、多くの歴史的建造物を中心に練堀の続く街並が融合し景観全体に統一感があり美しい。景観上の要点となる川沿いも良く整備されている。
- ◎ 車が主な交通手段となるため街路は比較的整備されている。

### 問題点

- ◎ 昼間の美しい景観も夜間はほとんど活かされていない。
- ◎ 主動線となる国道は、幹線道路としてよく整備されているがエリア内の街路照明は不十分。
- ◎ 交通の新たな拠点として長府駅を活用する場合は、整備が必要と思われる。

### iii 基本方針

#### コンセプト適応イメージ



#### 光のイメージ

- ◎住区が混在する歴史的観光エリア。
- ◎情緒ある散策路を活かし、街路に面した歴史的建造物に対して重厚で趣のある照明を行う。
- ◎訪れる人々を楽しませるだけでなく、住民にも配慮した快適な光環境を創造する。

#### 整備の方向性

## 建造物

#### 歴史的建造物

- ・多くの歴史的建造物について積極的に照明を行う。山門、参道などを備えた奥行きのある施設については、街路から見ることのできる場所を選定する。
- ・建物全体ではなく特徴的な意匠部分を強調するような照明手法を用いる。

#### 商業施設

- ・城下町内に新設される飲食店などの新しい商業施設は、今後の歴史的建造物を活かした照明整備と調和した照明を行う。
- ・看板やサインなどの照明は周辺住区に配慮して行う。

## 街路

#### 城下町内街路

- ・町内や檀具川沿いを夜間散策できるよう十分な照明を配置する。
- ・明るさだけでなく、光色やグレア(まぶしさ)にも配慮した照明を行う。
- ・住区については保安上、防犯上必要と思われる箇所に十分な明るさを確保できるような照明を行う。周囲に対する配慮として光漏れのしないような灯具が望ましい。

#### 幹線道(国道、県道)

- ・道路照明として安全で快適な明るさを確保できるような照明を行う。
- ・できるだけ器具形状や光源(光色)は統一し、周囲に対する配慮として光漏れのしないような灯具が望ましい。

#### 市道(アーケード商店街)

- ・町内の繁華街としての華やかさと歴史文化の街としての情緒ある照明を行う。

整備の方向性

## 交通拠点

### 長府駅

- ・今後交通の拠点となるよう、快適で安全な光環境とする。
- ・駅舎だけでなく、その周囲も含めた照明を行う。

## 公園/広場

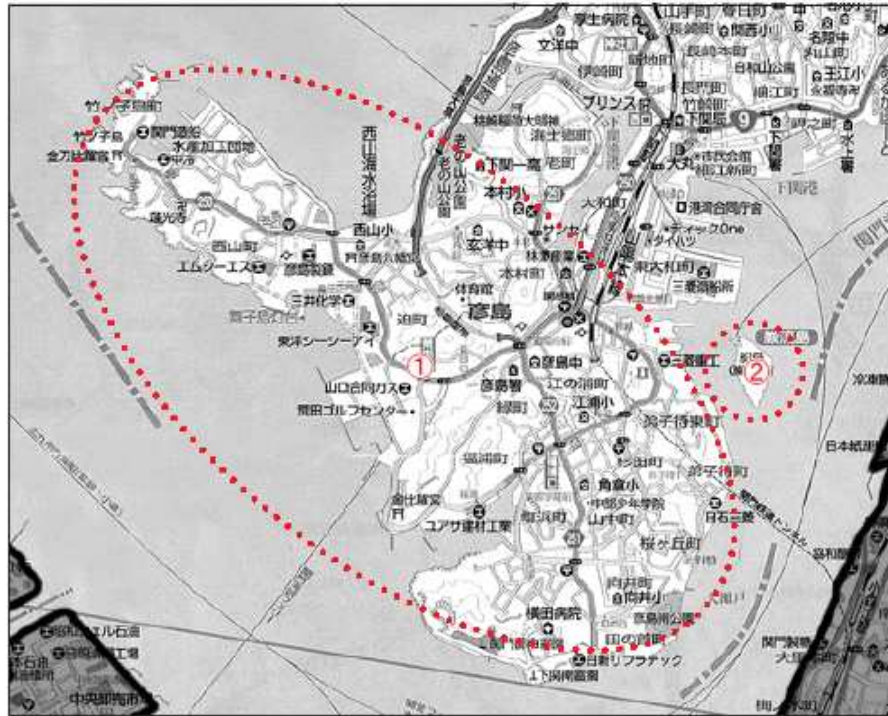
### 公園，広場

- ・該当箇所無し



c. 彦島・巖流島エリア

(調査場所)



i . 景観の現状

①彦島地区

幹線市道



昼間



夜間

住宅街路



昼間



夜間

西山海水浴場



昼間



昼間

彦島八幡



昼間

南風泊港



昼間

彦島大橋



昼間

ナイスビューパーク駐車場



昼間

## 昼 景

- ◎ 彦島には漁港や工業施設も多いが、そのほとんどは住宅地で占められている。
- ◎ 南端の地区として海水浴場や規模の大きい公園も多い。また、かつて漁港で栄えた地区として彦島八幡宮のような寺社も多い。

## 夜 景

- ◎ 中心街路である県道には街路灯が配置されているが、住宅地を含めたその他の街路には防犯灯程度しか設置されていない。
- ◎ 海水浴場等も照明は配置されていない。

## ②巖流島

巖流島浮桟橋



巖流島より下関市街・唐戸方面を望む



巖流島より門司港方面を望む



巖流島より下関市街・唐戸方面を望む



佐々木巖流之碑



公衆トイレ



休憩所



遊歩道



武蔵／小次郎像



巖流島決闘の地石碑



巖流島 決闘の浜（人工海浜）



決闘の浜より私有地を望む



## 昼 景

- ◎ 巖流島は彦島から300m程度しか離れていないが、下関市と北九州市の両岸を見渡しながら海峡という地形を体感できる貴重な場所である。
- ◎ 目立った施設はないが、決闘の浜といった歴史上有名な場所に観光客も興味深く足を運んでいる。

## 夜 景

- ◎ 島へ渡る船が夜間航行していないことから、島内に通常の照明施設もなく周辺からは存在がわからない。

## ii 景観特性及び問題点

### 景観特性

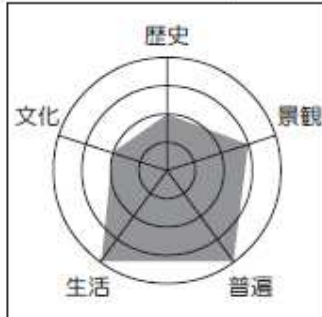
- ◎ 彦島全体は観光上の拠点は少ないが、公園や海水浴場といった公共の屋外施設が多く、市民にとっては憩いのエリアといえる。
- ◎ 巖流島は知名度と気軽に船で渡れる点から観光地として人気がある。海峡における視点場としても有効な場所である。

### 問題点

- ◎ 公共の屋外施設は、夜間利用がないため照明設備がほとんどないが防犯上には問題があると思われる。
- ◎ 幹線道の街路照明以外、ほとんどが防犯灯程度の暗い街路となっている。
- ◎ 観光上あるいは景観上有効な巖流島は照明設備がなく夜間活用されていない。

### iii 基本方針

#### コンセプト適応イメージ



#### 光のイメージ

- ◎住区が主体のエリアで一部に観光地を含む。
- ◎自然景観と住民に配慮し、必要最小限の照明を行う。
- ◎観光地については、訪れる人々を楽しませ周囲の景観にも配慮した快適な光環境を創造する。

#### 整備の方向性

## 建造物

#### 歴史的建造物

- ・歴史的建造物について積極的に照明を行う。山門、参道などを備えた奥行きのある施設については、街路から見ることでできる場所を選定する。
- ・建物全体ではなく特徴的な意匠部分を強調するような照明手法を用いる。

#### 巖流島

- ・夜間も観光地となるよう、島内の散策路や主要な施設に照明を配置する。また、対岸や夢タワーからも視認できるような手法を用いる。
- ・電源として自然エネルギーを活用することを検討する。

## 街路

#### 幹線道

- ・道路照明として安全で快適な明るさを確保できるような照明を行う。
- ・できるだけ器具形状や光源(光色)は統一し、周囲に対する配慮として光漏れのしないような灯具が望ましい。

#### 住宅路

- ・保安上、防犯上必要と思われる箇所に十分な明るさを確保できるような照明を行う。
- ・周囲に対する配慮として光漏れのしないような灯具が望ましい。

## 交通拠点

#### 交通拠点

- ・該当箇所無し

## 公園/広場

#### 海水浴場、公園

- ・住区に近い施設として、安全を確保できる照明を行う。
- ・周辺に有害な光が及ばないような配慮をする。

## **2 . 夜間景觀整備対象**



## 2 - 1 . 整備対象

### ( 1 ) 基本方針より

基本方針より、下関市における夜間景観整備として下記を中心に実施することが有効であることが明らかとなった。

- ・ 歴史的建造物
- ・ 新整備施設
- ・ 拠点となる既存施設（港、駅、広場等）
- ・ 街路

### ( 2 ) 整備対象について

上記のとおり整備に有効な対象は明らかとなったが、今後実際に整備を行うにあたってはそのすべてを同時に実施することは不可能であるため、その中でも特に効果が高く、全体コンセプトにおけるテーマをより早く実現に近づけられるものを対象にすべきであると考え

る。  
よって、今回の夜間景観整備の対象としては、施設の認知度が高く、又、話題性があるなど、最も下関らしさを表現することのできる、

- ・ 歴史的建造物
- ・ 新整備施設

を対象とする。

## 2 - 2 整備対象の選定

a. 下関市街・唐戸エリア									
No.	整備対象	種類	時代	西暦	所有者	規模	夜間景観上の 重要度	歴史・文化上の 重要度	備考
a-1	大歳神社 鳥居（白石正一郎寄進）	神社	江戸	1962年	民間	小	A		ライトアップ整備予定
a-2	大歳神社 階段	神社	大正	1918年	民間	中	A		ライトアップ整備予定
a-3	大歳神社 鳥居（社殿前）	神社	大正	1918年	民間	小	A		ライトアップ整備予定
a-4	大歳神社 社殿	神社	大正	1918年	民間	小	B		ライトアップ整備予定
a-5	旧下関英国領事館	歴史的建造物	明治	1906年	市	中	A		ライトアップ整備予定
a-6	山口銀行旧本店	歴史的建造物	大正	1920年	民間	中	B		既施工
a-7	あるかばーと広場等	広場等	平成	1996年	市	大	A		
a-8	下関市役所第1別館	歴史的建造物	大正	1923年	市	中	B		
a-9	旧内務省下関土木出張所乾船渠	歴史的建造物	大正	1914年	市	中	A		
a-10	みもすそ川公園 既設砲台	像、彫刻	江戸	1864年	市	小	B		
a-11	みもすそ川公園 キャノン砲レプリカ	像、彫刻	江戸	1864年	市	小	B		
a-12	日清講和記念館	歴史的建造物	昭和	1934年	市	中	B		
a-13	下関南部町郵便局	歴史的建造物	明治	1900年	国	中	A		
a-14	旧秋田商会	歴史的建造物	大正	1915年	市	中	A		

b. 長府エリア									
No.	整備対象	種類	時代	西暦	所有者	規模	夜間景観上の 重要度	歴史・文化上の 重要度	備考
b-1	長府毛利邸 入口石壁	歴史的建造物	明治	1903年	市	中	A		
b-2	長府毛利邸 表門	歴史的建造物	明治	1904年	市	小	A		

c. 彦島・巖流島エリア									
No.	整備対象	種類	時代	西暦	所有者	規模	夜間景観上の 重要度	歴史・文化上の 重要度	備考
c-1	巖流島 決闘の浜	島	江戸	1612年	市 / 民間	大	A		
c-2	巖流島 園路他	島	江戸	1612年	市 / 民間	大	A		
c-3	巖流島 島の外周（水際）	島	江戸	1612年	市 / 民間	大	A		

d. 下関駅周辺エリア									
No.	整備対象	種類	時代	西暦	所有者	規模	夜間景観上の 重要度	歴史・文化上の 重要度	備考
d-1	下関駅 モニュメント	モニュメント	平成	1995年	市	中	A		
d-2	下関駅 ペDESTリアンデッキ	建築物	平成	1995年	市	大	B		
d-3	国道9号高架下	高架下	昭和	1942年	国 / 民間	中	B		

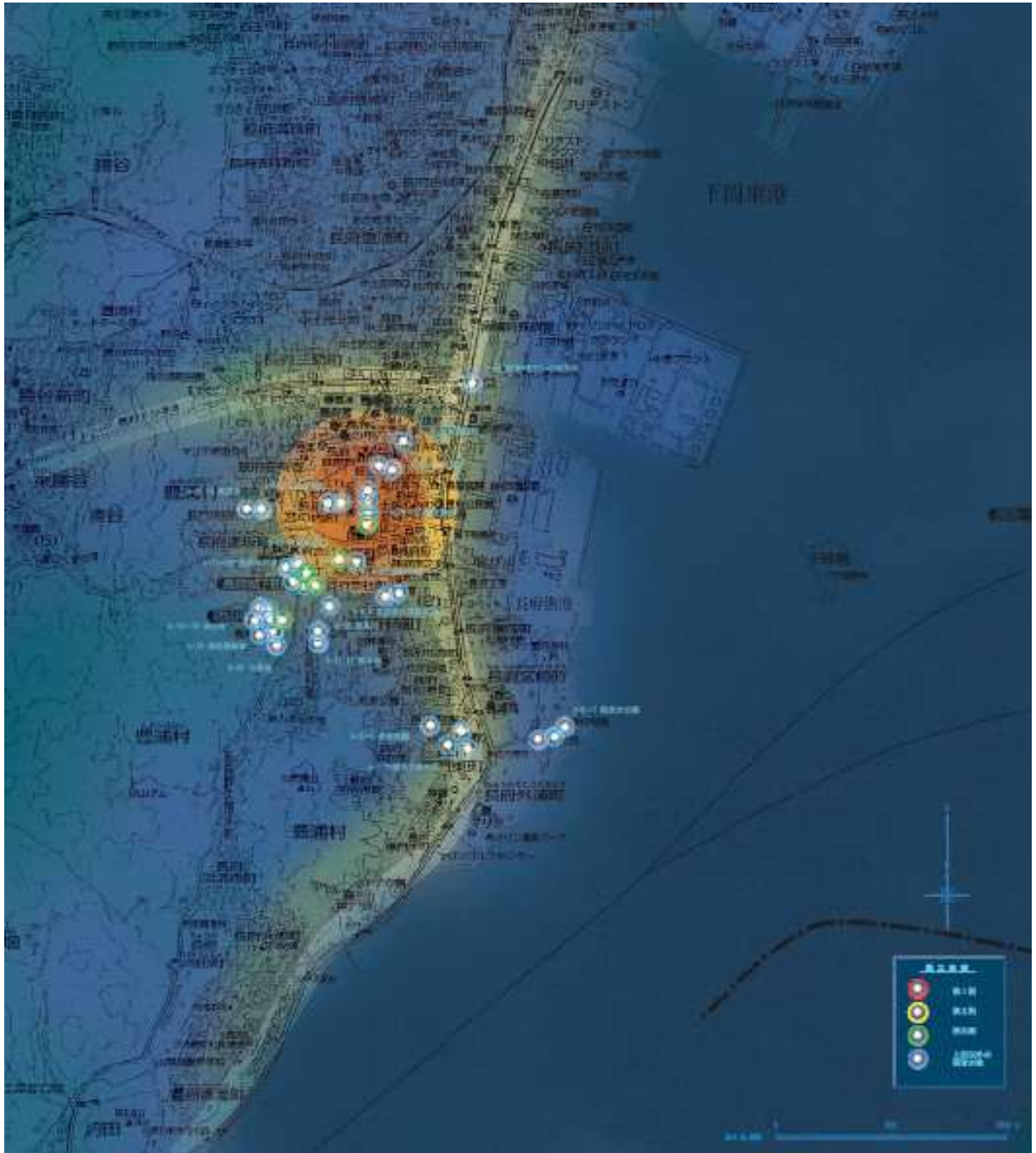
上記の他、夜間景観形成にあたり、効果が高いと思われる民間施設についても所有者と協議を進めながらライトアップ整備を推進する。

## 2 - 3 整備イメージ

a. 下関市街・唐戸エリア / c. 彦島・巖流島エリア / 下関駅周辺エリア



b. 長府エリア



## 2 - 4。ライトアップイメージパース

(注：あくまでもイメージであり、ライトアップ対象施設として決定したものではない。)

### 日清講和記念館

明治28年、この地が日清講和条約締結の会場となった歴史的意義を後世に伝えるため建設した歴史ある建造物を、暖かい光で照らしあげる。窓からの明かりも使い、日本的な行灯のような存在感を醸し出す演出をする。





日清講和記念館



現状写真

(注:あくまでもイメージであり、ライトアップ対象施設として決定したものではない。)

### **3 . 夜間景觀整備計画**

### 3 . 夜間景観整備計画

#### 整備の進め方

整備対象施設の選定にあたっては、夜間景観上の重要度や地理的な配置、整備対象相互の関連性などを総合的に検討する。整備に際しては、より効果の高い整備対象施設から順次時間を追って実施していくことにより、実施物件が年々増えて、夜間景観エリア（あかり）が次第に広がっていくようになる。

なお、夜間景観形成にあたっては、効果が高いと思われる民間施設についても所有者と協議を進めながら積極的にライトアップを推進していくこととする。

又、ソフト面では、点灯式やシンポジウム等を開催することにより、市民に下関らしい夜間景観を考える場を提供したり、パンフレットやHPを作成することにより、夜間景観形成に対する市民意識の啓発を図る等、積極的なPRに努めることとする。

#### 整備推進体制

夜間景観形成を一体的かつ重点的に推進するため、庁内関係部局との連携を強化するとともに、歴史的建造物等の所有者、観光協会、及び民間開発業者・設計業者等との協力体制を構築し、整備対象である「歴史的建造物」及び「新整備施設」の効果的かつ継続的なライトアップ整備を実施する。